

【芦屋市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとする ICT 環境によって実現をめざす学びの姿

本市では、「夢と志をもって自らの未来を切り拓く子ども」（第3期芦屋市教育振興基本計画）を育てるために「一人ひとりの個性や特性、興味関心、理解度等を踏まえた公正で最適な学び（ちょうどの学び）」をめざしています。

この「ちょうどの学び」のためのツールの一つとして1人1台端末を利活用し、ICT環境の整理とともに、一層の充実をめざします。

具体的な姿として、「どの子ども安心できる」「個々のペースに応じて学ぶ」「仲間や教師とつながりながら学ぶ」「夢中になって学ぶ」といったことをめざし、そのための1人1台端末の在り方を研究してまいります。

2. GIGA 第1期の総括

本市では、上記の第3期芦屋市教育振興基本計画（R3～R7）および「Ashiya PEACE プロジェクト（R5.8～）」を受け、教育振興のための様々な取組を推進してきました。

【参考 URL】

〈第3期芦屋市教育振興基本計画〉

<https://www.city.ashiya.lg.jp/kanri/shinkoukeikaku/shinoukeikaku3.html>

〈Ashiya PEACE プロジェクト〉

<https://www.city.ashiya.lg.jp/gakkoukyouiku/ashiyapeaceproject.html>



その中でも、重点目標の1つである「子どもたちの学びを支える環境の整備」において、タブレット端末等の ICT を活用した授業の研究を進め、主体的・対話的で深い学びにつながる授業の実践をめざしてきました。

(1) 成果

大きな成果として、子どもたちや教職員がごく自然に端末を利活用できるようになってきたことが挙げられます。

GIGA 第1期当初は、「端末を使わなければ」という授業者の思いが先行し、授業の中で必要以上に端末を利用することにより、子どもたちの学びが停滞したり深まりが見られなかったりという実態がありました。

こういった実態を踏まえ、より効果的な場面での端末利用の研究を進めることで、子どもたち自身が端末の使用場面を選択し、デジタルとアナログを的確に使い分けるといった姿が見られるようになってきました。

(2) 課題

端末の効果的な利活用が進む反面、子どもたちの目的外利用や破損といった IT リテラシーの欠如が要因となる事案が多数発生しています。デジタルネイティブである子どもたちの多様な使用場面に対して、情報モラル教育が追い付いていない結果とも言えます。

また、上記とも関連し、教職員間や学校間での活用格差も課題となっています。

さらに、子どもたちの健康面に対する影響についても、実態の的確な把握と対策が求められています。

3. 1人1台端末の利活用方策

上記総括を踏まえ、以下の方策により成果の充実と課題の解消をめざします。

(1) 教育委員会事務局指導主事・ICT支援員等による現場に寄り添った支援の拡充

本市の教育委員会事務局指導主事・ICT支援員等がこれまで担ってきた支援内容を整理し、より現場の実態や要求に寄り添った支援の拡充をめざします。

特に、ITリテラシーの獲得をめざす情報モラル教育においては、「ひょうごGIGAワークブック」等の活用を通じて、情報社会におけるルールやマナーの習得、インターネット利用に当たっての危険の回避や情報セキュリティに関する知識の習得等、発達段階に応じた情報モラル教育に取り組みます。

【参考 URL】

〈兵庫県教育委員会 情報モラル教育の推進〉

https://www2.hyogo-c.ed.jp/hpe/kikaku/cont_cate/morallink/



また、端末の効果的な利活用をめざす授業づくりについては、教育委員会事務局指導主事・ICT支援員等の伴走支援により、単なる授業後の指導助言に留めず、授業構想段階からの支援を推進してまいります。

(2) 子どもたちの活用状況の継続的な調査と分析

全国学力・学習状況調査結果等をもとに、現状の子どもたちの活用状況を分析し、健康面に対する影響の有無の把握を推進してまいります。

特に、子どもたちのスマートフォンの利用時間や動画視聴時間に注視し、学習面や生活環境への悪影響につながらないよう、1人1台端末の利用を通じて具体的な支援が行えるように研究を進めてまいります。